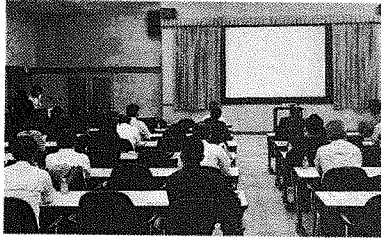


運輸ヘルスケアナビシステム

本格実施へ全国でセミナー 全ト協

健康起因事故の防止を図るため全日本トラック協会がNPO法人ヘルスケアネットワーク(OCHIS)に委託して「運輸ヘルスケアナビシステム」を構築し、今月から同シ



システムの実践的活用セミナーを全国5カ所で開催している。この中で22日に大阪府トラック総合会館で開いた大阪セミナーは、約50人の担当者が同システムの活用方法などに聞き入った(写真)。

開会で全ト協の大西政弘交通・環境部付部長が挨拶し、トラック業界での健康起因事故の発生率などに触れ、強い危機感から同システムの構築に着手したことを説明。活用を促した。

セミナーではOCHISの作本貞子副理事長が

健康起因事故の定義を説明し、同システムを事故の予防の観点から構築し、健診結果のフォローアップに資する効用を説いた。昨年には全国30社2179人による実証実験を行い、このデータ検証

から同システムの課題を探りながら改善し、「ハイリスク者の見える化」と運転者の健康維持のため生活習慣病を健診などで予防するとともに、発症後の治療などに役立てることが可能とした。

OCHISの保健師、黒田悦子氏は、同システ

ムへの健診データ入力方法など事業者側の手続きから始まり、入力データのOCHISでの分析、健診データをCD-ROMで返送してアドバイスを行う流れを説明した。

同システムは全ト協の補助対象で1人2千円の費用のうち半額の負担が受けられる。セミナーは福岡、東京、大阪、愛知に続いて6月7日には仙台でも行う。